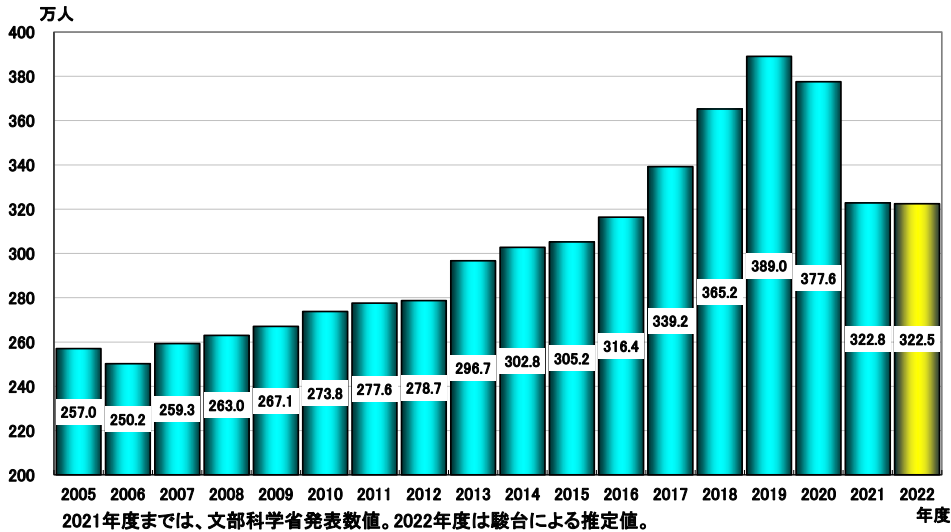


※本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎志願状況全体概況

□延べ志願者数は前年度並

〔私立大志願者数推移〕



駿台が集計した私立大545大学の一般選抜入試(学校推薦型選抜・総合型選抜等の特別選抜入試を除く)で志願者数が確定した募集単位を合計した延べ志願者数は、約323万人(100)で前年度並となりました。

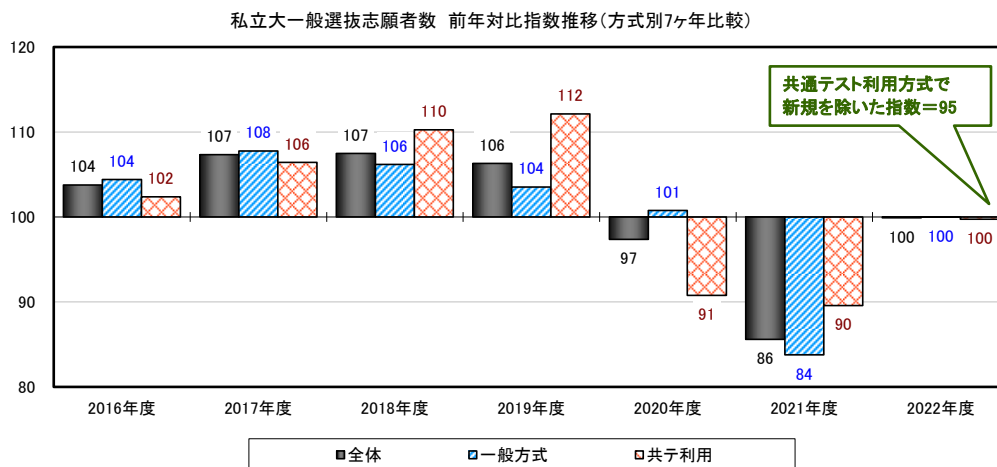
この数値から推定される最終的な全私立大の延べ志願者数は、前年度14.5%減少した322.8万人との比較で、ほぼ変わらない323万人前後になると予想されます。志願者数の反動増が起きずに前年度並となる

背景には、下記の4点が考えられます。

- ① 2021年度入試における、コロナ禍の中での併願校数を絞り込み、長距離移動を避けるという極端な志望動向が継続。
- ② 2022年度入試における共通テスト難化が、2021年度の共通テスト問題を見たことによる安心感を上回り、特に、「事後出願」での共通テスト利用方式への敬遠傾向が増加。
- ③ 2021年度入試で青山学院大、上智大、早稲田大の一部の学部等で導入された、新しい共通テスト併用方式が2年目となり周知されたことで、この新方式への敬遠傾向が緩和されたが限定的。
- ④ 中下位大学での一般選抜から総合型選抜などの特別選抜へのシフトの強化。

□一般方式、共通テスト利用方式はともに前年度並

〔私立大一般選抜 方式別志願者数 前年度対比指数〕



左のグラフは、私立大一般選抜の入試方式別の延べ志願者数の前年度対比指数の推移を表したものです。

2022年度は、一般方式(100)、共通テスト利用方式(100)はともに前年度並で、大きな差は見られません。ただし、共通テスト利用方式は、グラフにはありませんが新規導入

の募集単位を除くと(95)とやや減少となりました。共通テストの平均点ダウンは「事後出願」に影響したものと思われる。